地球科学 64 巻，201 ～ 205（2010 年）
Earth Science (Chikyu Kagaku) vol. 64, 201-205. 2010

小磐梯山，1888 年噴火前の姿
—大伴タキノ氏蔵，江戸後期の磐梯火山の絵図—

千葉茂樹*

Kobandai-san, the shape before the collapse of 1888 eruption
—The pictures of Bandai Volcano of Mrs.Otomo Takino's possession in the Late Edo era—

CHIBA Shigeki*

Abstract Kobandai-san was a mountain peak which was a part of Bandai Volcano. It disappeared when the mountain collapsed on July 15, 1888.

A writer discovered pictures in which the shapes of the Kobandaisan were drawn before the disappearance. These pictures are illustrations of the "Shinpen Aizufudoki" from Mrs.Otomo Takino. There are two drawing of Kobandaisan in this illustration. These pictures were drawn surrounding Bandai volcano. One drawing is of the northwestern side from the south side of Bandai Volcano. One more drawing is of the north side from the east of Bandai Volcano.

Through inspection, it is understood these the shapes of Kobandai-san were drawn before the collapse of 1888 eruption. From these shapes of Kobandai-san, we can infer "The top part of Kobandaisan consisted of three peaks", and " There was a big dale between Kushigamine and Kobandai-san". For this reason, "Shinpen Aizufudoki" kept by Mrs.Otomo Takino are very important materials for the recreation of the form of Kobandai-san.

Key Words : Bandai volcano, Kobandai-san, 1888 eruption, Shinpen Aizufudoki, Otomo Takino

はじめに

磐梯火山は，磐梯山・櫛ヶ峰・赤埴山の 3 峰からなる（第 1 図）．「小磐梯山」とは，かつて磐梯火山の頂部に存在した峰で．1888 年（明治 21 年）7 月 15 日の噴火及び山体崩壊によって消失した．この小磐梯山の崩壊を記載した磐梯火山 1888 年噴火の論文は Sekiya and Kikuchi (1889) など多数ある．さらに，小磐梯山の山容の復元は，米地文夫氏ほかにより試みられてきた（米地 1989，2006 など）．

本論では「新編會津風土記」に描かれた消失前の小磐梯山の絵を，新たに発見したので報告する．

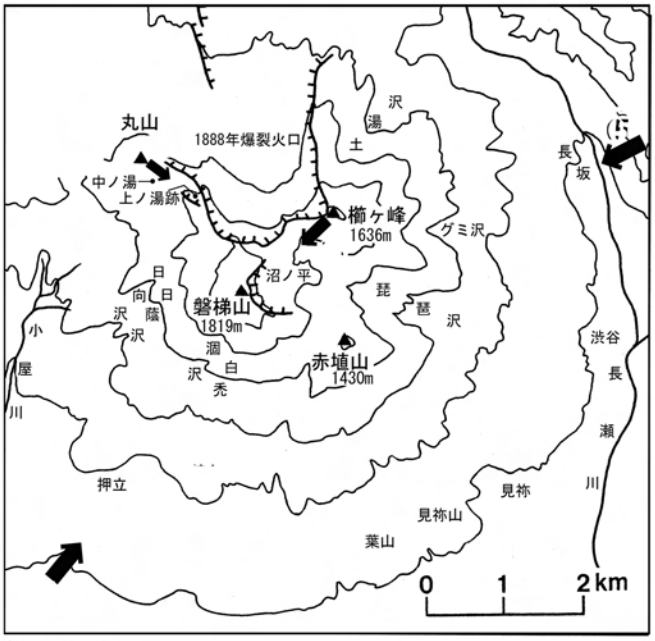
なお，磐梯火山を構成していた「大磐梯（山）」「小磐梯（山）」の呼称に，「山」を付ける場合と付けない場合がある．本論の挿絵には「山」が付いていないが，たとえば関谷・菊池（1889）のように「山」を付けている場合もある．地元では他の峰も含めて「山」を省略する場合が多い．現在でも「赤埴山」を「赤埴」と呼ぶ．本論では，省略形は使わず，これらの峰に「山」を付けて表記する．なお，「大磐梯山」は，1888 年の噴火で「小磐梯山」が消失したため，現在では単に「磐梯山」と呼ばれている．したがって，特に断らない限り，磐梯山は大磐梯山を意味する．また，本論では火山全体を示す場合に「磐梯火山」，単峰を示すときは「磐梯山」を使用する．

大伴タキノ氏所蔵の「新編會津風土記」

「新編會津風土記」は，会津藩により 1803 年に編纂作業が始まり 1809 年に完成した（丸井 2000）．現存する「新編會津風土記」はいくつかあるが，いずれも写本である．これらの写本の一部は，編集・出版されている（花見 1960；丸井 2000 など）．また，これとは別に，手書きの写本は福島県立図書館にも存在し，電子化され公開されている．これらの写本の挿絵は，どの写本もすべて類似した絵で，黒一色で描かれている．このうち磐梯火山を描いた挿絵は 1 種類である（第 2 図）．

本論の「新編會津風土記に描かれた消失前の小磐梯山の絵」は，大伴タキノ氏所蔵の新編會津風土記（以下，「大伴版」と記載する）の中の挿絵である．現存する大伴版は磐梯火山の挿絵が入っている 1 冊のみである．大伴版の大きさは縦

2009 年 11 月 30 日受付．2010 年 8 月 31 日受理．
＊福島支部，福島県立保原高等学校，〒 960-0604　福島県伊達市保原町元木 23．Fukushima Branch, Hobara High School, 23, Motoki, Hobara, Date, Fukushima 960-0604, Japan.



第１図　地形図.
①・④の矢印は，大伴図の描画範囲を示す．②・③・⑤・⑥は，写真の撮影方向を示す.
本図は，国土地理院 1/5 万の地形図「磐梯山」を基に作成した.
Fig. 1　A topographical map of Bandai Volcano
The arrows of ①, ④ show the estimated drawing range of the illustration of Otomozu. The arrows of ②, ③, ⑤ and ⑥ show the estimated direction of photographs. This figure was made based on the 1/50000 topographical map "Bandaisan" from the Geographical Survey Institute.

第２図　「新編會津風土記」（丸井 2000）の挿絵
Fig. 2　The illustration of"Shinpen Aizufudoki"（Marui 2000）.

35.0cm，横 16.0cm で，薄い和紙に毛筆で書かれ，二つ折りにされ糸で綴られている．表紙はやや厚手の和紙で，藍色に彩色されている．本文は，毛筆で書かれ，更にメモ書きされた紙片が挟まれている．挿絵は毛筆で描かれ，彩色がなされている．挿絵には，磐梯火山のほか飯豊連峰・吾妻連峰・猫魔連峰・猪苗代城（亀ヶ城）などがある.

所蔵する大伴タキノ氏によれば,「大伴家は代々慧日寺（福島県磐梯町）の法印であった．かつては独立した棟の書庫があり，大量の書物が厳重に保管されていた．しかし，太平洋戦争後の混乱期に財産の大半を失い，これとともに貴重な書物も散逸した.」（2009 年 7 月 24 日大伴タキノ氏談）とのことである.

大伴版の挿絵に描かれた小磐梯山

大伴版の挿絵の中で，磐梯火山を描いたものは 2 点である（以下,「大伴図」とする．第 3 図，第 4 図：カラー画像を千葉（2010）に示す）．これらの図は，特定の地点から磐梯火山を描いたものではなく，上空の視点から磐梯火山を絵巻物の様に取り巻いた形で描かれている．大伴図の 1 点は磐梯火山の南側から北西側までを描いている（以下，大伴図 A とする．第 1 図，第 3 図）．他の 1 点は磐梯火山の東側から北側までを描いている（以下，大伴図 B とする．第 1 図，第 4 図）．また，2 枚とも，水平方向に対し高さが誇張して描かれている.

大伴図の描画地形の検討

前述のように，大伴図は磐梯山を取り巻くように描かれている．このため，現在の地形と比較する際に，絵 1 枚に対し写真 2 枚を用いて，地形の対応関係を調べた.

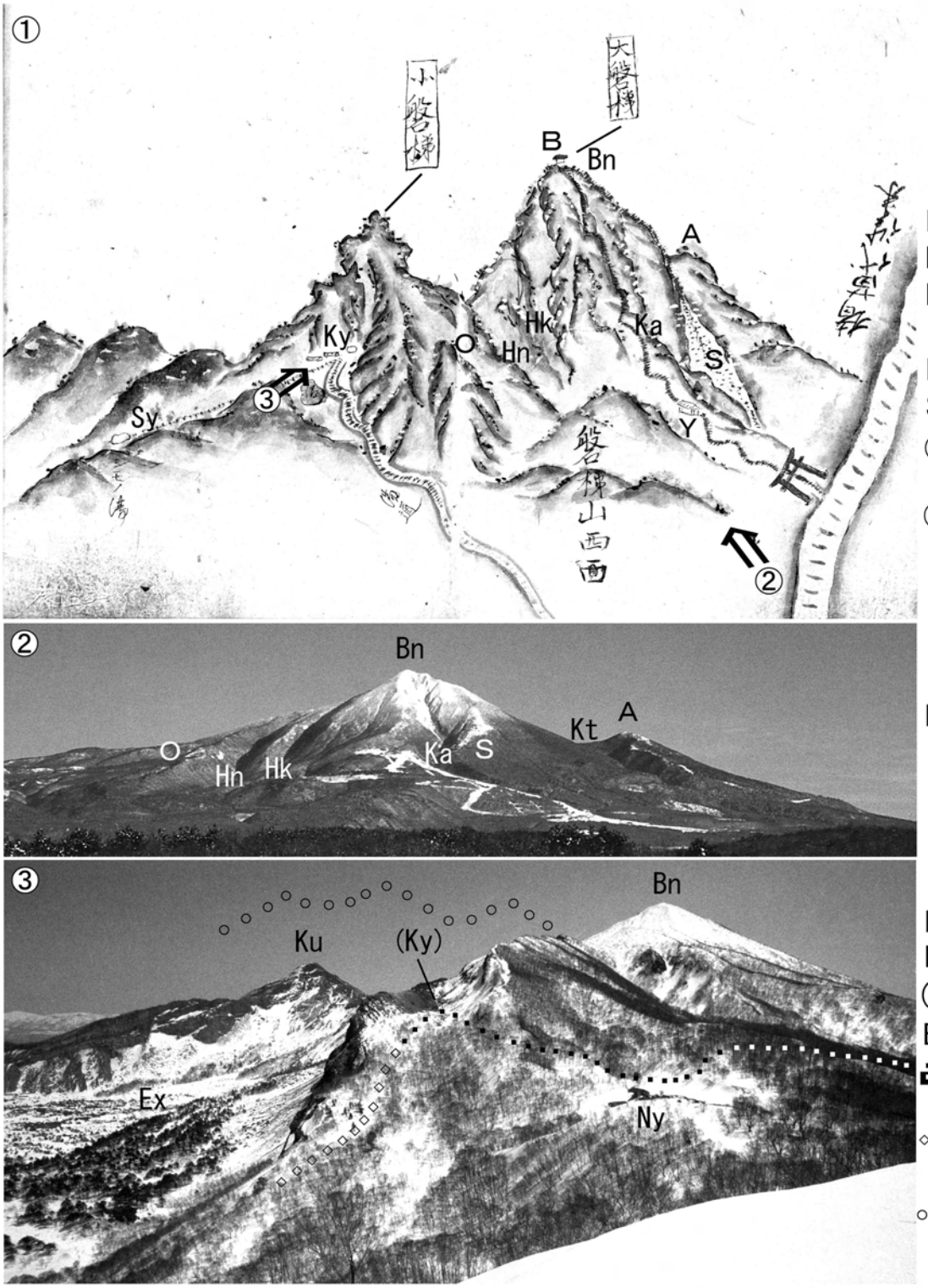
大伴図 A を第 3 図①に示す．この絵は, 大伴版を開いた際, 左右のページに分かれている．第 3 図①は左右のページを合成したものである．第 3 図②は現在の山容で，南西約 11km の河東町強清水から撮影したものである．第 3 図③は現在の山容で丸山から撮影したものである．第 1 図に第 3 図②・③の撮影位置・方向を示す.

第 3 図の①と②を比較すると，赤埴山（A)・磐梯山（Bn)・白禿（S)・涸沢（Ka)・日蔭沢（Hk)・日向沢（Hn)・大儀式（O）がそれぞれ対応する．第 3 図①と③を比較すると，上ノ湯（Ky）および山道が対応する．第 3 図③の中ノ湯（Ny）は明治 5 年に発見されている（磐梯町歴史編纂委員会 1992）ので，第 3 図①には存在しない．さらに，第 3 図①の下ノ湯（Sy）は 1888 年噴火の際に岩屑なだれに襲われ消失したので，第 3 図③には存在しない.

なお，大伴図 A（第 3 図①）の小磐梯の下にある家屋には名前がない．しかし，Sekiya and Kikuchi（1889）など 1888 年噴火の記録した地図にはこの家屋の位置に「kaminoyu」や「上ノ湯」の記載がある．この事実から, この家屋を「上ノ湯」とした．また，大伴図 A の「シモノ湯」は，1693 年の文書に「下ノ湯」の記載がある（磐梯町歴史編纂委員会 1992）．このことから，本論では「シモノ湯」ではなく「下ノ湯」と記載した.

第 4 図④は大伴図 B である．第 4 図⑤は現在の山容で，東北東約 12km の猪苗代町沼尻から撮影したものである．第 4 図⑥は現在の山容で，櫛ヶ峰からから撮影したものである．第 1 図に第 4 図⑤・⑥の撮影位置・方向を示す.

前述のように，第 4 図④の視点は上空にある．このため,



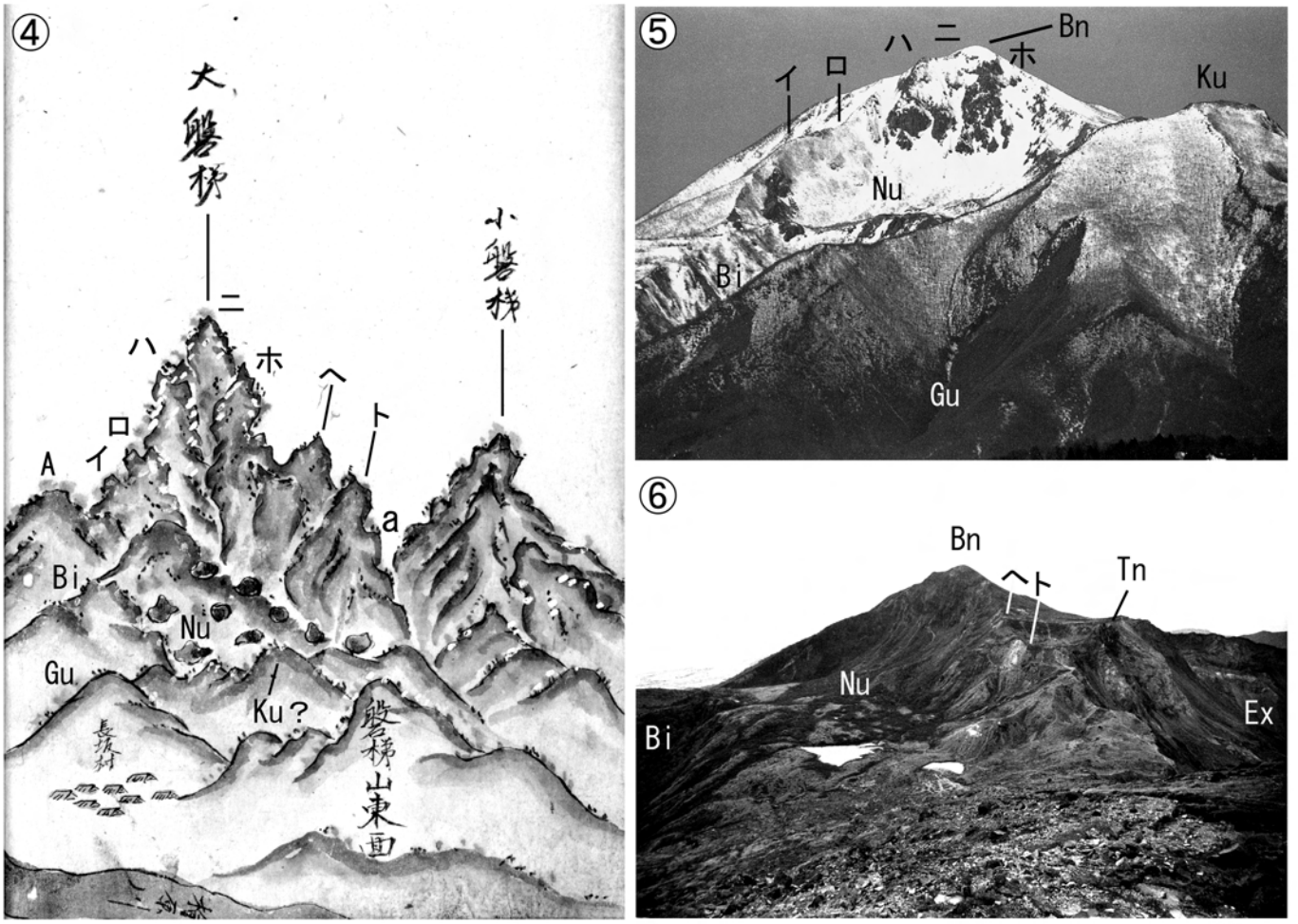
A：赤埴山
B：磐梯神社
S：白禿
Y：遥拝殿
Ka：涸沢
Hk：日蔭沢
Hn：日向沢
O：大儀式
Ky：上ノ湯
Sy：下ノ湯
②⇒：写真②の撮影方向
③⇒：写真③の撮影方向

Bn：磐梯山（大磐梯）
Kt：桂沢

Ku：櫛ヶ峰
Ny：中ノ湯
(Ky)：上ノ湯跡
Ex：1888年爆裂火口
旧道（著者踏破確認）
◇◇◇ 旧道（痕跡喪失，旧地図より推定）
○○○ 小磐梯山の推定山容

第３図　大伴図と現在の地形との比較
①：大伴図 A．挿絵に「磐梯山西面」と書かれているが，地形の描画から南側から北西側までを描いたものである．②：南西約 11km から撮影した写真（1987 年 12 月上旬撮影）　③：丸山山頂より撮影した写真（1988 年 4 月 17 日撮影）

Fig. 3　A comparison with the illustration of Otomozu A and the present geographical features.
①：This illustration is Otomozu A. In this picture, it is being written "Bandaisan west side". But, this picture drew south side to northwest side, because the drawing ranges of the geographical features. ②：The picture taken from the southwest about 11km away（Photography in early December, 1987）. ③：The picture taken from at the Maruyama the top of the mountain（Photography on April 17, 1988）.



Bn:磐梯山　A:赤埴山　Bi:琵琶沢　Gu:グミ沢　Nu:沼ノ平　Ku:櫛ヶ峰　Ex:1888年爆裂火口　Tn:天狗岩　:沼

第４図　大伴図と現在の地形との比較

④：大伴図 B．挿絵に「磐梯山東面」と書かれているが，地形の描画から東側から北側までを描いたものである．⑤：東北東約 12km から撮影した写真（1990 年 4 月 3 日撮影）　⑥：櫛ヶ峰山頂より撮影した写真（1990 年 10 月 26 日撮影）

Fig. 4　This illustration is from"Shinpen Aizufudoki" and is kept by Mrs.Otomo Takino. A comparison with the illustration of "Shinpen Aizufudoki" and the present photograph.

④：This illustration is Otomozu B. In this picture, it is being written "Bandaisan east side". But, this picture drew east side to north side , because the drawing range of the geographical features.

⑤：The picture taken from the east-northeast about 12km away（Photography on April 3, 1990）. ⑥：The picture taken from at the Kushigamine the top of the mountain（Photography on October 26, 1990）.

図の奥の磐梯山周辺の地形は比較的対比しやすいが，絵の手前の下半分は，地形が重なり現在の地形との対比が難しい．更に，図の中央より右側 1/3 は 1888 年の噴火で消失，もしくは残存していても地形が変化しており，対比が難しい．また，図の中央付近には沼と推定される模様があり，この付近が沼ノ平（ぬまのたいら）と推定できる．

第４図④と⑤を比較すると，磐梯山（大磐梯山）周辺の地形（イ～ホ），沼ノ平（Nu），琵琶沢（Bi），グミ沢（Gu）が対応する．第４図④と⑥を比較すると，磐梯山北側（写真の右）の地形（へ，ト）が対応する．また，沼ノ平（Nu）の微地形が対応する．

考察

既述のように，大伴図 A は磐梯火山の南～北西側を，大伴図 B は東側から北側を描画している（第１図）．この２枚から描画にはない北西側の山容はわからない．

大伴図 AB と磐梯火山の現在の山容と比較すると，既述のように，大伴図は地形の特徴を捉えた描画である．この事実から，大伴図は小磐梯山の地形を比較的正確に描画していると見てよい．

次に，大伴図 AB から小磐梯山の山容を考察すると，２点推定できる．１点目は，大伴図 A（第３図①）から，頂部は３峰あったと読み取ることができる．また，湯桁山と小磐梯山を分けて描いてはいない．したがって，小磐梯山の頂部付

近は，湯桁山含めて少なくとも3峰あったと推定できる．2点目は，大伴図B（第4図④）から，櫛ヶ峰と小磐梯山の間に大きな沢aが存在したと読み取ることができる．

なお，小磐梯山の山容復元は米地（1989）により試みられている．米地（1989）は，1888年山体崩壊で生じた爆裂火口の位置に，湯桁山と4峰から構成される小磐梯山があったとしている（第5図）．

小磐梯山の山容について，本論の大伴図の解析結果と米地（1989）には差異がある．これは，大伴図の場合，北西方向の描画が欠落しているため，大伴図には描かれていない峰があるのかもしれない．この点は，今後の検討課題とする．

大伴タキノ氏所蔵「新編會津風土記」の挿絵の意義

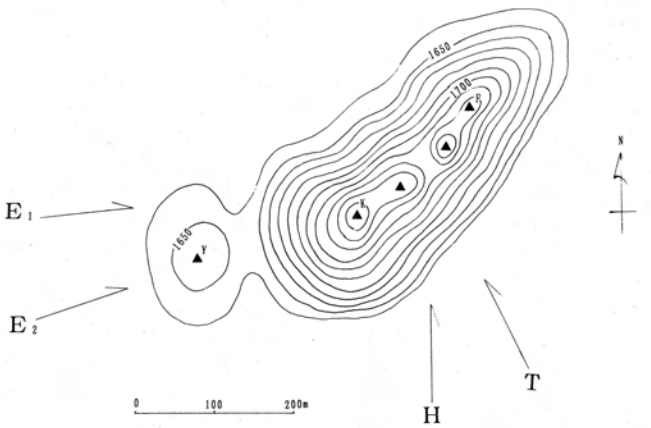
小磐梯山の山容を推定には，現存する写真や絵が重要である．既知の小磐梯山を描いた絵は，会津若松や猪苗代からの描写が多く，他の方面の絵は少ない．

今回発見した大伴タキノ氏所蔵の「新編會津風土記」の磐梯火山の挿絵は，①磐梯火山を取り巻くように多方向から描いている，②既知の絵では描かれていない方向からも描いている，③地形描写はやや誇張されてはいるが地形の特徴をよく捉えている，の特徴がある．

以上の理由により，大伴タキノ氏所蔵の「新編會津風土記」の磐梯火山の挿絵は，小磐梯山の山容解明にとって極めて重要な資料であると結論できる．

また，磐梯火山以外の挿絵も，従来の「新編會津風土記」の挿絵とは異なるもので，この点からも重要な資料である．

最後に，小磐梯山の正確な山容解明には，多くの写真や絵が必要である．今回発見した大伴タキノ氏所蔵「新編會津風土記」の挿絵は，小磐梯山の北西側が描かれていない．今後，決定的な資料—裏磐梯方向からの写真・絵など—の出現が望まれる．



小磐梯山山頂付近の旧形復元推定図
K：小磐梯山の山頂，Y：湯桁山山頂，F：第一次崩壊したとみられる小磐梯山北東ピーク，E_1：遠藤香村・「信遊紀行図絵」の磐梯山図の方向，E_2：同・「猪湖一覧」の磐梯山図の方向，H：白雲の磐梯山図の方向，T：高島北海の磐梯山図の方向。

第5図　米地（1989）の小磐梯山の復元図
Fig. 5　The reconstructive figure of Kobandai-san by Yonechi (1989).

謝　辞　大伴タキノ氏には，貴重なお話をいただき，ご所有の「新編會津風土記」の挿絵の掲載許可をいただいた．更に，慧日寺資料館には資料収集に便宜をはかって頂いた．また，丸山からの写真撮影に際し，1988年当時福島県立猪苗代高等学校の生徒であった故大関大介氏にはご協力をいただいた．更に，福島県立保原高等学校の平木恵里子氏，Jason Ishida氏，福島市立北信中学校の山内崇司氏には英文要旨の作成にご協力をいただいた．編集エディターの佐藤隆春氏，査読に当たられた米地文夫氏，内山　高氏には有益なご指摘をしていただいた．以上の方々に謝意を表す．

文　献

磐梯町歴史編纂委員会（1992）磐梯町史資料編Ⅱ，近世の磐梯町．磐梯町，磐梯，178p.
千葉茂樹（2010）小磐梯山，消失前の姿．地球科学，64：179-181.
花見朔巳（1960）新編会津風土記第2巻．雄山閣，東京，338p.
丸井佳寿子（2000）新編会津風土記第2巻．歴史春秋出版，会津若松，381p.
関谷清景・菊池安（1889）磐梯山破裂実況取調報告．官報1575，271-275.
Sekiya K and Kikuchi Y（1889）The eruption of Bandai-san. Jour Coll Sci Imp Univ Japan, 3：91-172.
米地文夫（1989）絵画資料の分析による小磐梯山山頂の旧形と1888年噴火経過の再検討．東北地理，41：113-147.
米地文夫（2006）磐梯山爆発．古今書院，東京，201p.